

八万南小学校 「学力実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成を目指した指導方法の工夫
～子どもの実態に応じた指導方法の工夫を目指して～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 池田 佳世
委員 【校長】①大知大【教頭】②元木誠子 ③松永宏【教務】④安藤仁美【研修】⑤池田佳世【各学年等】⑥佐々木菜美⑦鈴木あゆみ⑧布川有加⑨吉成有紗⑩新田英明⑪原豊子

校長 大知 大

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識を問う問いかけには、答えることができる児童が多い。 ●児童の学力差が見られる。	①当該学年の、基礎的・基本的な知識・技能を概ね習得し、ミニテスト等で平均80点以上とることができる。	・週3回のモジュールの時間を活用し、発達段階に応じた反復学習やミニテスト、読書の時間を確保する。 ・個々の特性やつまずきを把握し、個に応じた目標の設定や指導方法の工夫を行う。		・発達段階に応じた反復練習やミニテストを実施した。個々の学力に差は見られるが基礎的・基本的な知識・技能が定着しつつある。	・基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるように、定期的に達成状況を把握して、実態に応じた学習を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○モデルを示すことで、自分の思いや考えを表現できるようになってきている。 ●身につけた知識や技能を他の学習や生活の場面で活用することが難しい。	①目的や課題に応じて、根拠や理由を明らかにしながら自分の意見を出し合い、深め合うことができる。 ②身につけた知識や技能を他の学習や生活の場面で活用することができる。	・表現の仕方のモデルを示し、繰り返し自分の考えを伝え合う場面を設ける。 ・学習の系統性を意識し、問題解決に向けて知識・技能を活用して考える時間を設ける。		・学習内容に応じて表現の仕方のモデルを活用しているが、理由や根拠を明らかにして伝え合うことには課題が残る。 ・学習したことや身に付けたことを、生活の中に取り入れようとしている。	・場の設定の工夫や継続した指導を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●自らの学習課題を把握し、解決できるように取り組むことは十分ではない。	①学習規律を守り、学習に対する意欲的な姿勢を身につける。 ②自らの学習課題を把握し、解決に向けて取り組むことができる。	・学習規律(「チャイム着席」「学習の準備」「話す・聞く態度)」の指導を徹底する。 ・自らが学習課題を見出すことができるような効果的な資料や学習活動の工夫を行う。 ・課題解決に向けた学習形態を工夫する。	・教職員間で、公開授業を実施するなど、教職員の授業力の向上を図ることができるようにする。	・指導を徹底させることで、学習規律を概ね定着させることができた。 ・子どもが主体的に学習に取り組めるような場の設定や発問の工夫をすることで、自らの学習課題に向き合おうとしている。	・教職員間での公開授業を積極的に行い、教職員の授業力の向上を図れるようにする。

令和6年度 学力向上ロードマップ

